

荒海山・荒海沢

1988年7月29日

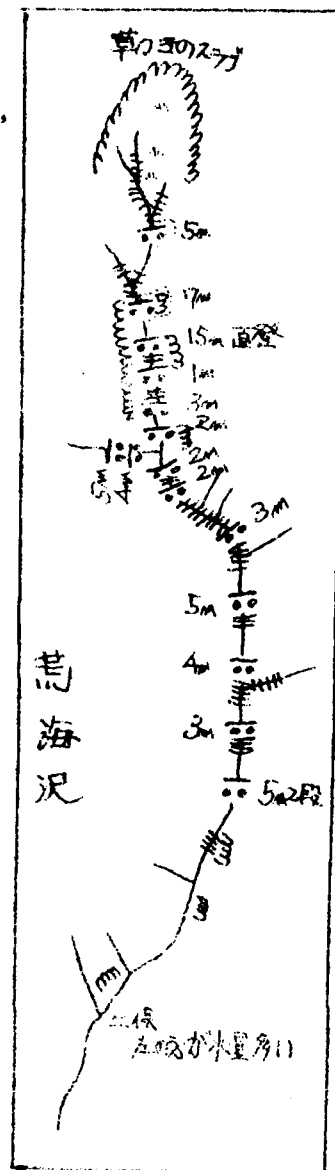
廃鉱になって久しく、今はすっかり廃墟北してしまった八総鉱山跡に車をデポして出発。20分程歩くと荒海山登山道入り。そこから沢に入る。

最初はずっと平凡な沢歩きである。15分も歩くと、右岸から水量の多い支沢が入る。本流の荒海沢よりも水量は多い。40分程遡った所で、最初の滝5m2段。上段が2条に分かれて落ちている滝で、右側をシャワーで直登する。左側からも登れそう。ここまでが平凡な沢であっただけに、これでようやく意気が上がる。このあとしばらく3-5mクラスの滝が連続する。いずれも直登してゆくが、花崗岩や黒い岩、赤っぽい岩などが交錯している上、岩がすべってちょっと緊張させられた所もあった。

やがて両岸、特に右岸に大きな岩場が出てきて、ちょっと険悪な様相を見せ始める。そして沢の行手を阻むようにしてこの沢最大の15m滝が立ちはだかる。下から見上げた感じでは、わりとホールド豊富のように見えたのだが、取り付いてみたら、細かなホールドが多く、しかも岩にヌルがついている。右岸をとにかく直登したが、相当に緊張した。

続く7m滝は、左岸を高捲く。下の滝で相当に緊張したので、はじめから無理をしないようにした。このあとは源頭までナメが続く。途中の5mも左岸を捲いて上に出る。

源頭は明るくひらけた急傾斜の草付のスラブである。沢はその中で複雑に分岐し、その本流は最も左



端を流れている。スラブは全体が草付の占める部分の方が多く、灌木も多く生えている。そして、上部ほど急傾斜になる。ルートはどうとろうかとちょっと思案したが、右手の尾根には登山道があるはずだからと、スラブをななめに横断して、右手の尾根に出た。登山道にでたのは、14:35。そこから10分程登れば山頂であった。

荒海山の山頂は2つのピークよりなる。西側のピークからの展望は素晴らしい。360度さえぎるものない、好展望台である。あいにくこの日は一部にガスがかかっていたが、七ヶ岳や会津駒、燧、日光連山などが一望できた。東側のピークには、2等三角点があるが、ここに立つにはヤブこぎが必要。山頂直下には、ロボット雨量計の小屋を改造した南麓小屋がある。小人数なら宿泊できそうだ。

帰路は、登山道を下る。登山道は尾根ぞいにつけられている。だいたいは尾根の西側を通るようになっている。登山口への最後の下りは、沢筋を一気に下ってゆく。全体としてよい登山道とはいえないが、はっきりしている。ずっと樹林帯の中で展望はきかないが、所々に見通しのきく所があり、そこでは荒海山やそこから流れ下る荒海沢がよく見えた。

(記・)

[タイム] 荒海沢出合(12:25)→遊行終了(14:35)→荒海山山頂(14:45, 15:00)

八溝山周辺の沢

南沢支流イの沢

1988年9月17日

今日で南沢流域の調査を完了するつもりである。いつものように山本不動尊の駐車場に車を置き、南沢左岸の荒れた林道を足早に歩く。6:20イの沢(仮称)出合。この沢は、ずっと花崗岩地帯を流れるが、全体に平凡である。1~2mクラスの滝があるだけで、どうということもないまま源頭に至る。岩の上に落ちた滑る落葉に注意しながら最後の3m滝を直登すると、そこはもう源頭。尾根のわずか下から湧き出る絶えることない清水が、この沢の源であった。所要時間15分の短い